

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

第3期「世界に誇れる『まち』広島」創生総合戦略の推進

2 地域再生計画の作成主体の名称

広島市

3 地域再生計画の区域

広島市の全域

4 地域再生計画の目標

- 『地域の現状』の原因となる、地域の課題

本市の総人口は2020年の120.1万人をピークに減少しており、住民基本台帳によると2024年には117.4万人まで落ち込んでいる。「国立社会保障・人口問題研究所」の「社人研推計準拠」によると、2060年には、総人口が96.8万人となる見込みである。

年齢3区分別人口の推移をみると、年少人口（0～14歳）は1980年の24.3万人から2020年には15.9万人と減少の一途を辿っている一方、老年人口（65歳以上）は1980年の7.4万人から2020年には30.9万人と増加の一途をたどっており、少子高齢化がさらに進むことが想定されている。また、生産年齢人口（15～64歳）も2000年の79.6万人をピークに減少傾向にあり、2020年には73.3万人となっている。

自然動態についてみると、出生数は1980年の14,746人以降減少を続け、2023年には7,868人となっている。その一方で、死亡数は2023年には12,639人と増加を続けており、出生者数から死亡者数を差し引いた自然増減は▲4,771人（自然減）となっている。合計特殊出生率は、2015年、2016年に1.51を記録して以降、低下傾向にあり、人口を維持することができる水準である2.07には達していない。こどもを生む中心の世代となる20～39歳の女性の人口が減少傾向にあることから、出生数は減少傾向にある。

社会動態についてみると、2016 年には転入者 (37, 366 人) が転出者 (37, 247 人) を上回る社会増 (119 人) であったが、2017 年以降は社会減に転じており、2023 年には▲3, 795 人の社会減となっている。2023 年の本市の地域別人口移動について見ると、中国地方・四国地方からは転入超過となっているが、東京圏・関西圏を中心としてその他の地域へは転出超過となっている。男女別に見ると、中国地方からの転入超過、東京圏・関西圏への転出超過ともに、女性の方が多くなっている。

さらに、2023 年の本市の地域別人口移動について、年齢階層別・男女別に見ると、15～29 歳では、男女ともに中国地方等からは転入超過となっているが、東京圏・関西圏を始め、多くの地域へは転出超過となっている。また、30～39 歳では、男女ともに一部の地域を除いて転出超過となっており、15～39 歳の転出超過数は男女合わせて約 2, 200 人となっている。

このような人口の変化が将来に与える影響としては、消費の減少による地域の経済成長の低下や、産業の就業者数の減少による大幅な人材不足、社会保障費に係る現役世代の負担の更なる増加など、市民生活の様々な場面に大きな影響を及ぼすことが懸念される。

人口減少の主な要因としては、合計特殊出生率が人口を維持することができる水準には達していないことに加え、こどもを生む中心の世代となる女性の人口が減少していること、また、東京圏・関西圏を中心として、15～39 歳の転出超過が多くなっていることが挙げられる。

このため、人口減少が避けられない状況にあっても、将来にわたって活力ある社会を維持していくためには、本市に住む方々が、自らの将来展望を開くことにつながると実感できるような諸生活環境を整えるということを意識し、「出生率の向上」と、他の年齢層と比較して転出超過数が多い「15～39 歳（進学・就職・結婚・出産を迎える年齢層）の転出超過の抑制」に向け、早急に対策を講じる必要がある。

- ・ 『地域の課題』で分析した課題を解決するための取組

本市では、都市間での競争を前提とする旧来のまちづくりの発想を転換して、広島広域都市圏を構成する市町と連携してそれぞれの強みを生かしながら、圏域経済の活性化と圏域人口 200 万人超の維持を目指し、圏域全体が持続的な発展を

していくまちづくりを進めている。

人口減少が進んだとしても将来にわたって住み続けてもらえる圏域であるためには、本市がこれまで進めてきた「都心の大改造」を始め、「公共交通の充実強化」など「魅力と活力あるまちづくり」を基盤としながら、転出超過の抑制と合計特殊出生率の向上に資する対策を強化するとともに、都市部や中山間地・島しょ部などあらゆる地域で生活する市民がそれぞれのライフスタイルに合わせて元気にいきいきと活動できる生活環境を創出することによって、人口減少に歯止めを掛け、将来にわたって活力ある地域社会の維持を目指す。

以下の事項を本計画期間における基本目標として掲げる。

- ・基本目標 1 世界に輝く平和のまち
- ・基本目標 2 国際的に開かれた活力あるまち
- ・基本目標 3 文化が息づき豊かな人間性を育むまち

【数値目標】

5-2の ①に掲げ る事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2030年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア、イ、ウ	15～39歳の転出超過数	-1,257人	0人	基本目標 1～3

本市においては、他の年齢層と比較して15～39歳（進学・就職・結婚・出産を迎える年齢層）の転出超過数が多いことから、特にこの年齢層の転出超過の抑制に注力することとする。

なお、合計特殊出生率については、本市が実施する取組の効果により、若い世代の人口維持が図られる中で、国が「こども未来戦略」に基づき取り組む少子化対策と相まって、若い世代が結婚やこどもを生み育てることに希望を持つことが可能となり、将来的な合計特殊出生率の向上につながるという考え方のもと、参考数値としてその推移を把握し、適宜、本市施策・事務事業の見直しに活用していく。

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2 のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する
特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

第3期「世界に誇れる『まち』広島」創生総合戦略の推進事業

ア 世界に輝く平和のまちづくりに資する事業

イ 国際的に開かれた活力あるまちづくりに資する事業

ウ 文化が息づき豊かな人間性を育むまちづくりに資する事業

② 事業の内容

ア 世界に輝く平和のまちづくりに資する事業

(1) 「平和への願い」を世界中に広げるまちづくり

(a) 世界で最初に被爆し、廃墟から立ち直った都市として、世界の都市や多様な主体との連携を推進し、国際世論の醸成を図りながら、広島市がこれまで訴え続けてきた核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けて取り組む。

(b) 被爆から75年以上が経過し、被爆者の高齢化が更に進む中、各国為政者や世界中の人々の広島訪問を促すとともに、核兵器のない平和な世界を若い世代からも訴えていけるよう、被爆の実相を守り、広め、伝える取組を進め、被爆体験を基にした平和を希求する「ヒロシマの心」の共有の推進を図る。

(c) 平和首長会議の加盟都市を始めとする世界の都市や市民社会、国連機関等と連携し、飢餓や貧困、差別、暴力、環境破壊など、市民生活の安寧を脅かす諸問題の解決に向けた活動を推進する。

【具体的な事業】

・ 平和文化の普及・促進

・ 被爆体験伝承者の養成

等

イ 国際的に開かれた活力あるまちづくりに資する事業

(1) 活力の創出と都市の個性の確立を目指したまちづくり

- (a) 中四国地方の中核都市として、持続的にその活力を維持・向上させるため、都心等における業務・商業機能の集積・強化や利便性の高い公共交通ネットワークの構築など、集約型都市構造への転換に向けた取組を進めることにより、都市機能の充実強化を図る。
- (b) 圏域経済の活性化に資する産業の集積・強化、広島市の経済の屋台骨である中小企業の活性化、農林水産業の振興を図るなど、産業の振興に取り組む。
- (c) 広島市の観光資源の魅力向上や、広島広域都市圏の市町と連携した広域周遊観光、インバウンドの推進を図るなど、観光の振興に取り組む。
- (d) 海外諸都市との交流の推進や市民レベルでの交流の促進、外国人訪問者が滞在しやすく、また、外国人市民の暮らしやすさにも配慮したまちづくりに取り組むなど、国際交流・国際協力や多文化共生の推進を図る。

(2) 地域特性に応じた個性的な魅力を生かしたまちづくり

- (a) 多くの人々が「訪れたい」、「住んでみたい」、「住み続けたい」と感じる個性的で魅力あるまちを実現するため、「デルタ市街地」、「デルタ周辺部」、「中山間地・島しょ部」の三つのエリアの特性を踏まえ、地域資源を生かしたまちづくりを推進する。
- (b) 各区の個性豊かな地域資源を生かし、住民による主体的かつ継続的なまちづくり活動を促進するなど、区の魅力と活力の向上に取り組む。
- (c) 広島広域都市圏を構成する市町と共に、人口減少に歯止めを掛け、圏域の経済の活性化と自律的で持続的な発展を目指し、ヒト・モノ・カネ・情報が循環する、どこに住んでも安心して暮らしやすく、住民の満足度の高い都市圏の形成に向けた取組を推進する。

【具体的な事業】

- ・魅力ある都心づくり推進事業
- ・乗合バス事業の共同運営システムの構築 等

ウ 文化が息づき豊かな人間性を育むまちづくりに資する事業

(1) 多様な市民が生き生きと暮らせるまちづくり

- (a) 多様な市民が活力にあふれ、生きがいを感じ、生き生きと暮らせるとともに、広島広域都市圏の住民にとっても、活躍できる場を創出するまちを目指し、地域の活力を生み出す雇用等の促進や、男女が共に活躍でき、また、生涯にわたって学習できる社会の実現を目指した取組の推進を図るなど、高齢者や女性を始め全ての市民の意欲と能力が発揮できる環境づくりに取り組む。
- (b) 市民一人一人の生きがいや心の充足感、健康増進や体力向上等に資するとともに、市民や国内外から訪れる人々が多様で上質な文化・スポーツの魅力に触れることのできる環境の下、様々な交流を生み出すことにより、広島広域都市圏全体の活力とにぎわいが創出されるよう、文化・スポーツ活動に対する支援や参加機会の提供、環境の整備を進めるなど、その更なる振興に取り組む。
- (c) 市民、広島型地域運営組織「ひろしまLMO」を始めとした地域団体や企業、NPO等による主体的なまちづくりが推進され、地域が主体となって地域の様々な課題にきめ細かく対応していけるよう、まちづくり活動に対する支援やその担い手確保を図るなど、地域コミュニティや多様な市民活動の活性化に取り組む。

(2) 保健・医療・福祉、こどもの育成環境の充実を目指したまちづくり

- (a) 地域において、住民がそれぞれ役割を持ち、相互につながり支え合いながら、心豊かに暮らせるよう、「自助」、「共助」、「公助」を適切に組み合わせることにより、持続可能性の高い地域福祉を推進するとともに、高齢者や障害者、子どもなどが抱える様々な課題に対応できる包括的な支援体制の構築を図るなど、地域共生社会の実現に向けて取り組む。
- (b) 市民はもとより、広島広域都市圏の住民も安心して豊かな暮らしを送ることができるよう、健康づくりの推進、新たな感染症の発生も見据えた健康で安寧な生活の確保、医療提供体制等の充実を図るとともに、

高齢者が安心して暮らせる社会の形成や、障害者の自立した生活の支援に取り組むなど、保健・医療・福祉の充実を図る。

- (c) 急速に社会経済環境が変化していく中、こどもたちが将来に希望を持ち、健やかに成長していくことができるよう、全てのこどもが健やかに育つための環境づくりや、幼児教育から、小学校、中学校、高等学校、大学がそれぞれ連携し、円滑に接続された教育体系を基盤として、特色ある多様な教育プログラムを展開しながら、こどもの様々な能力や適性等に応じ、一人一人を大切にする教育の実現に向けた取組の推進を図るなど、未来を担うこどもの育成と教育に取り組む。

(3) 安全で安心して生活でき、豊かな自然を将来に引き継ぐまちづくり

- (a) 市民の誰もがいつまでも住み続けたいと思うまち、訪れた誰もが住んでみたいと思うまちに不可欠な安全・安心の確保を図るため、地域の防災力の向上や情報収集・連絡体制の整備、広島広域都市圏の近隣市町とも連携した消防体制の充実、防犯意識や交通安全意識の高揚、道路や公園、上下水道等の施設の効果的・効率的な維持保全を進めるなど、安全・安心に暮らせる生活基盤の整備に取り組む。
- (b) 自然災害の発生要因と言われている地球温暖化の防止対策を推進するとともに、豊かな自然を将来に引き継いでいくため、省エネルギー対策の推進や再生可能エネルギーの活用促進、ごみの減量・資源化等の推進、自然環境の保全を図るなど、環境と調和した循環型社会の形成に取り組む。

【具体的な事業】

- ・広島市地域コミュニティ活性化ビジョンに基づく取組の推進（地域団体等に対する支援）
- ・高齢者いきいき活動ポイント事業 等

※なお、詳細は第3期「世界に誇れる『まち』広島」創生総合戦略のとおり。

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

3,000,000 千円（2025年度～2030年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（P D C Aサイクル）

【検証方法】

毎年度7月頃に本市がP D C Aシートを作成し自ら行った効果検証の結果を、本市の総合戦略の推進組織である「広島の拠点性強化に向けた懇話会ワーキンググループ会議」に報告し、事業の実施手法や効率化等について意見・助言を頂く。

【外部組織の参画者】

産：中国経済連合会、広島商工会議所、広島経済同友会、広島県経営者協会

官：広島市

学：広島大学、広島市立大学、広島修道大学、広島工業大学、比治山大学

金：(株)広島銀行、(株)もみじ銀行、(株)日本政策投資銀行中国支店、(株)日本政策金融公庫広島支店

労：日本労働組合総連合会広島県連合会西部地域協議会

【検証結果の公表の方法】

本市議会への報告、本市公式W E Bサイトへの掲載。

⑥ 事業実施期間

2025年4月1日から2031年3月31日まで

6 計画期間

2025年4月1日から2031年3月31日まで